

「慰安婦」解明努力を

金鍾泌氏 訪韓の梶山氏に要請

【ソウル19日＝内田明憲】会談した。

自民党の梶山幹事長は十九日午後、成田発の大韓航空機でソウルに到着し、金鍾泌民自党代表最高委員（元首相）を民自党本部に訪ね

金氏は、従軍慰安婦問題について、「日本に物質的補償は要求せず、韓国側が納得する形で真相解明を求める」との金泳三大統領

の新たな方針を説明することにも、「韓日関係は、過去のことが未来の発展にわたるものになるなら取り除き、未来志向で展開させるべきだ」と述べ、日本側の真相

解明に向けての努力を要請した。

これに対し、梶山氏は慰安婦問題は、心の中に痛みを覚える問題であり、誠意を尽くして対応したい」と理解を求めた。

また、金氏は、対日貿易赤字問題をとり上げ、日本が韓国への技術移転を一層進めることで貿易不均衡の是正に努めることに期待を

表明。

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の核拡散防止条約（NPT）脱退問題について、金氏は、北朝鮮が金日成主席から金正日書記への権力移譲の過程にあり、北朝鮮の出兵が「予測しにくい状況にある」との認識を示したうえで、「国際社会が納得する形で解決するよう日韓両国が協力すべきだ」との考えを強調。梶山氏も「同感だ。私も意を強くした」と応じた。

また、日韓の議員交流を活性化することで合意した。